

日本古生物学会 第 171 回例会

2022年2月4日（金）～2月6日（日）

オンライン

ホスト校：名古屋大学

* * * * * 1. プログラム 概要 * * * * *

2月4日（金）会場：Zoom A会場

【13:00–16:00】 シンポジウム「関節の科学」 ii

【17:00–19:00】 オンライン懇親会 ii

2月5日（土）会場：Zoom

【10:00–11:30】 一般講演 口頭発表 1（A, B 会場） iii

【11:45–12:45】 ランチョン小集会（A 会場ブレイクアウトルーム 1） iii–iv

【12:45–13:45】 一般講演 ポスター発表コアタイム（B 会場） iv–v

【14:00–15:15】 一般講演 口頭発表 2（A, B 会場） vi

【15:45–17:00】 一般講演 口頭発表 3（A, B 会場） vi

【17:45–19:15】 夜間小集会（B 会場） vii

2月6日（日）会場：Zoom

【10:00–11:15】 一般講演 口頭発表 4（A, B 会場） vii–viii

【13:00–14:30】 一般講演 口頭発表 5（A, B 会場） viii

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください） ix

その他（Zoom の準備等） x

第 171 回例会参加費：一般会員 5,000 円，学生会員 1,500 円，友の会会員 1,000 円，
一般非会員 6,000 円，学生非会員 2,500 円，名誉会員・高校生以下無料

第 171 回例会（オンライン）は事前登録制です。参加される方は、講演の有無に関わらず、以下のサイトにアクセスして例会専用アカウントを作成し、送られてくる参加仮受付完了メールに記載の URL からログインして、参加登録とクレジット決済を行ってください。

<https://psj171.award-con.com/LOGIN.php>

***** 2. プログラム 詳細 *****

2月4日（金）

【13:00-16:00】Zoom A会場

シンポジウム「関節の科学」

コンビナー：藤原慎一・大路樹生（名古屋大学博物館）

動物の関節は、節足動物、軟体動物、脊椎動物、棘皮動物など、筋骨格系をもつ多くの動物が骨格要素の境界領域にもつ構造である。関節構造は、骨格要素間の相対的な運動において、特定の方向への動きを促す一方で、別の方向への動きを著しく制限する。このような機能的側面における関節形態の理解は、絶滅動物の関節の運動性の復元へも応用されてきた。一方で、生物として各骨格要素を成長させていく過程で、付加成長や脱皮、リモデリングなど、成長様式の制約を負った中で、骨格要素の接合部の運動性を維持していくことが要求されるため、形態形成論的な理解は非常に重要である。本シンポジウムでは、機能形態学的側面と、形態形成論的側面のそれぞれから、多数の分類群で関節形態の形態形成、機能形態、解析手法についての理解を共有し、今後の発展性について議論を行う。

- 13:00-13:15 趣旨説明 藤原慎一（名大博）
- 13:15-13:40 現生 主竜形類 の前肢関節における 軟骨・靭帯の 三次元 分布と 運動制御
への影響～ 田村朝紀（名大環）
- 13:40-14:05 CT から読み解く四肢動物の首の関節運動 松本涼子（神奈川県博）
- 【14:05-14:25】－休憩－
- 14:25-14:50 トリゴニアの鉸歯から考える軟体動物における蝶番関節の成長過程
吉永亘希（九大理）・岡本隆（愛媛大・理）・前田晴良（九州大・総合研究博物館）
- 14:50-15:15 脊椎動物の関節—発生と機能の交差点— 江川史朗（理研）
- 15:15-15:40 貝形虫類の背甲開閉システムにおける支点の形成
山田晋之介（国際医療福祉大）
- 15:40-16:00 総合討論

【17:00-19:00】オンライン懇親会 Zoom A会場

オンライン懇親会に予約は必要ありません。第171回例会に参加登録された方ならどなたでも参加できます。参加される方は、例会専用サイトからA会場にお入りください。飲食物等は各自でご準備下さい。なお、オンライン懇親会ではブレイクアウト・ルーム（バーチャルな小部屋）を多数用意して使用しますので、参加を希望される方はZoomを最新版にアップデートしておいてください（viiiページ記載事項参照）。5.3.0より古いバージョンで参加された場合、どのブレイクアウトルームにも移動できず、プレナリ用のメイン会場に取り残されてしまうことになります。

2月5日（土）会場：Zoom

【10:00-11:30】一般講演 口頭発表 1 (A, B 会場)

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部 (1) 座長:西岡佑一郎	分類・生層序の部 (1) 座長:相場大佑
A01 Guo Zixuan・甲能直樹 聴覚機能から見たマイルルカ小目の系統進化と適応放散の解明	B01 前川 匠 三疊系上村層のインドゥアン階-オレネキアン階境界
A02 黒野有花・甲能直樹 機能形態学により明らかにされるハーペトケトゥス(鯨下目髭鯨小目)の生態的地位	B02 松岡 篤・川尻啄真・香取拓馬・小河原孝彦 梅海新道菊石山(新潟県糸魚川市)周辺の来馬層群から産出した前期ジュラ紀軟体動物化石
A03 木村由莉・福井 大 多面的アプローチにより明らかとなった沖縄県大東諸島の洞穴性コウモリ類の人新世絶滅	B03 村上浩二・池上直樹 熊本県に分布する下部白亜系川口層から産出した 非海生二枚貝 <i>Trigonioides</i> 化石
A04 松井久美子・Nicholas D. Pyenson Unalaska (アラスカ州, アメリカ合衆国)から“新たに”発見された デスモスチルス類の追加標本	B04 中田健太郎・宮田和周・中山健太郎・安里開士・中谷大輔・小平将大 長崎半島東岸長崎市北浦町の上部白亜系より産出した軟体動物化石とその生層序学的意義
A05 高井正成・中務真人・江木直子・タウンタイ・ジンマウンマウンテイン・河野礼子・河内まき子 ミャンマーの後期中新世大型ホミノイド上腕骨化石の形態解析	B05 長田充弘・宮田和周・仁木創太・服部健太郎・平田岳史・大藤 茂 長崎半島に分布する上部白亜系三ツ瀬層の年代論
	B06 宮田和周・長田充弘・柴田正輝・大藤 茂 “赤崎層群”呼子ノ瀬層は白亜系マーストリヒト階最上部

【11:30-12:45】休憩 (A 会場ブレイクアウトルーム)

【11:45-12:45】ランチョン小集会 パレオ SDG—持続可能な古生物学のために今私たちができること— (A 会場ブレイクアウトルーム 1)

世話人：松井久美子 (Smithsonian Institution) ・木村由莉 (国立科学博物館) ・Ana M.

Valenzuela-Toro (University of California, Santa Cruz)

趣旨：近年，“持続可能性”や“サステイナビリティ”というキーワードを多くの場面で耳にするようになったのではないだろうか？2015年9月25日に国連総会で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されて以来，そこに掲げられた国際的な開発目であるSDGs (Sustainable Development Goals) の社会実装，すなわち持続可能な人類社会のための取り組みが，国内外で積極的に行われている．持続可能性という言葉は私たちの社会生活のみならず，産学公の各分野が今後の方向性を大きく変更するほどの重要な役割を果たしており，基礎科学研究もその例外ではない．SDGsには17ゴールが挙げられているが，そこには「4. 万人への質の高い教育，生涯学習」「10. 国内と国家間の不平等の是正」といった項目が含まれている．古生物学分野を見てみると，国内外の博物館の展示室や収蔵庫には，世界各地で収集された化石標本が多く収蔵されている．その中には，旧植民地か

ら旧宗主国が発掘したり、過去に化石産地から違法に持ち出したりした、いわゆる
 “colonialism”によってもたらされた負の遺産ともいえる標本も少なからず存在する。現
 在、一部の国において過去に持ち出された標本の返却をもとめる運動が起きていたり、脱
 法的に入手された化石を購入することによって生じる倫理的な問題がトピックとなってい
 る（decolonization of Paleontology）。日本では特に古脊椎動物学の分野においては、日本か
 ら産出する標本の少なさから購入標本を用いた研究も少なくはない。このような国際的な
 流れの中で、どのようにSDGsに対応した、未来へ向けたエシカルでサステイナブルな古
 生物学の未来を拓くべきなのだろうか？北米や南米での事例も踏まえ、古生物学における
 SDGs, ”パレオSDGs“について一緒に考えてみませんか？
 話題提供：松井久美子，木村由莉，Ana M. Valenzuela-Toro

【12:45–13:45】一般講演 ポスター発表(コアタイム:奇数番号 12:45–13:15, 偶数番号 13:15–13:45 B会場各ブレイクアウトルーム)

- P01 脇山涼輔・楠橋直・谷健一郎・石塚治 沖縄東方のフィリピン海海底より採集されたサメ類の歯
- P02 土屋祐貴・氏原温 耳石化石の処理方法に関する研究
- P03 田邊佳紀・藪本美孝 鳥取県国府町宮下産中新世ハゼ目魚類について
- P04 藤原謙如・上松佐知子 *Rana architemporaria* の系統的位置
- P05 平良暁子・河部壮一郎・高栗祐司・関谷透 カマラサウルスの上顎および下顎の血管神経管の解析
- P06 石川弘樹・小川由華・對比地孝亘 現生鳥類の孵化後の成長過程における骨学的形質の変化と順序異時性
- P07 多田誠之郎・對比地孝亘 現生鳥類の呼吸鼻甲介付着部の骨学的特徴に基づく非鳥類恐竜類における鼻甲介の存在可能性の予察的検討
- P08 尾崎薫・福嶋徹 アキシマクジラ (GMNH-PV-3210) および走査電子顕微鏡を活用した教育普及活動の事例
- P09 木村由莉・安藤佑介・合田隆久 本邦初，新第三紀のモグラ化石：下部中新統中村層から産出したモグラ科下顎骨の予察的報告
- P10 半田直人・出穂雅実・高橋啓一・飯塚文枝・Batmunkh Tsogtbaatar・Byambaa Gunchinsuren・Davaakhuu Odsuren・Lochin Ishitseren モンゴル東部オンドルハーン山のケサイ（奇蹄目・サイ科）化石
- P11 松橋義隆・中川良平 静岡県浜松市三ヶ日町平山の祥月洞より産出した哺乳類化石群集とその放射性炭素年代
- P12 西岡佑一郎・國松豊・日下宗一郎・半田直人 タイの中新世哺乳類化石群集：2017–2018年発掘調査の概報
- P13 吉田純輝・猪瀬弘瑛・菜花智・真鍋真 福島県いわき市の上白亜系・双葉層群玉山層から産出した小型の鳥脚類恐竜
- P14 今井拓哉・芝原暁彦・河部壮一郎・東洋一・村上雅彦・吉田雅則 仮想現実を利用した古生物展示の展望と課題
- P15 坂上莉奈・藪田哲平・服部創紀・河部壮一郎・柴田正輝・平山廉 現生カメ類の中耳・内耳形態と生息環境の関連性

- P16 柳田優樹・中島保寿・亀崎直樹・林 昭次 羊膜類動物にみられる成長パターンと骨小腔形態の関係
- P17 太田成昭・野下浩司・木元克典・清水啓介・石川彰人・遠藤一佳 貝殻成長におけるシグナル伝達因子 Wnt の役割
- P18 洲濱 愛・岡本 隆・中村千佳子 白亜紀アンモナイト *Yezoites* に見られる性的二型は必然なのか
- P19 吉村太郎・佐々木猛智・中山健太郎・安里開土・野田芳和 恐竜時代の貝殻キチン質
- P20 吉永亘希・廣瀬浩司・前田晴良 獅子島に分布する“中部”白亜系御所浦層群から産出する *Nipponitrigonia* の分類学的研究
- P21 村宮悠介・猪瀬弘瑛・歌川史哲・相場大佑・安藤寿男・大森 光 上部白亜系双葉層群足沢層から産出したコニアシアンアンモノイド
- P22 唐沢與希・相場大佑・阿部純也 北海道三笠地域の蝦夷層群シューパロ川層（下部白亜系アルビアン階）から産出したオウムガイ類化石
- P23 田切美智雄・及川 晃・塙 勝利・加藤太一・安藤寿男 カンブリア系日立火山深成複合岩体中の金山石灰岩に産した化石様組織
- P24 原島 舞・中澤 努・小沢広和・田中源吾・金子 稔・石川博行・野村正弘・上松佐知子 下総台地および大宮台地に分布する下総層群木下層の貝形虫化石
- P25 土井信寛・亀尾浩司 中新世における石灰質ナノ化石 *Reticulofenestrids* の形態変遷
- P26 福島佑一・高津翔平・小田 隆・上松佐知子 “日本最古の化石” オルドビス紀コノドントの動物像復元
- P27 安藤佑介・星 博幸・甲能直樹・楓 達也 瑞浪市明世町の市道工事で出現した瑞浪層群明世層と産出化石
- P28 矢部 淳・滝本秀夫・堀内順治・大花民子・加藤太一 茨城県北茨城市の深海成下部中新統亀ノ尾層から産出した大型植物化石
- P29 石垣 忍・中田昇吾・難波杜夫・鈴木茂之・田口栄次 岡山県高梁市川面町井才に分布する中新統と産出化石群
- P30 岡寄颯太・北村晃寿 静岡県焼津平野における過去 3500 年間の堆積環境の変化と災害履歴の検討
- P31 松岡 篤 ジュラ・白亜系境界の GSSP 策定に向けた 2021 年のベリアシアン作業部会の活動
- P32 宮田真也・藪本美孝 大分県玖珠盆地の更新統野上層産ニゴイ属魚類化石の再検討

高校生ポスターセッション

- HP1 伊集院早希・田邊美柚・細堀優香・前田紗楽・丸山心愛・大塚万優・清水祐希・白井杏美・田島満 滋賀県彦根市の芹川の泥炭層から産出したササラダニ化石
- HP2 諸根健大 仙台西部の地質構造と地史を検討する

【13:45-14:00】休憩

【14:00-15:15】一般講演 口頭発表 2 (A, B 会場)

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部 (2) 座長: 鏑本武久	分類・生層序の部 (2) 座長: 宇都宮正志
A06 森 浩嗣・宮田和周・加藤敬史 古第三紀カイギュウ類の太平洋進出について	B07 大路樹生・吉田英一・前田晴良・森 勇一・蜂矢喜一郎・水野吉昭・田中源吾・田中里志・山田敏弘・奈良正和・内田臣一・星 博幸・氏原 温・齊藤毅・川瀬基弘・子安和弘・加藤 萌・村宮悠介・山岡雅俊・安藤佑介・一田昌宏・宇佐美徹・林 常喜・牧口貴久・市村駿汰 下部中新統師崎層群の深海動物化石発掘調査
A07 犬塚則久 種分化期の進化の法則	B08 松原尚志・大橋崇人・太田敏量・中村雄紀・市川岳朗・兼子尚知・伊藤泰弘 北海道北見地域の中新統相内層の貝類化石群
A08 北川博道 埼玉県秩父市大野原の古秩父湾堆積層より鳥化石の産出	B09 栗原行人・柳沢幸夫 北サハリン産リュウグウハゴロモガイ科化石二枚貝 <i>Periploma yokoyamai</i> のシタイプの再発見と珪藻化石年代
A09 松岡廣繁 群馬県中新統原市層産「アンナカコバネハクチョウ」における特異な頭部骨格	B10 延原尊美・石田卓哉・池原 研 東海沖から採集された半化石シラスナガイ類の2新種について
A10 梅山遼太・平沢達矢 岐阜県福地層群(下部デボン系)から産出する脊椎動物化石	B11 酒井佑輔・湯川弘一・宮田和周・中田健太郎 福井県大野市長野地域における中部縦貫自動車道川合トンネル工事で産出した前期白亜紀の植物化石

【15:15-15:45】休憩

【15:45-17:00】一般講演 口頭発表 3 (A, B 会場)

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部 (3) 平沢達矢	古生態の部 座長: 佐野晋一
A11 渡部世利英・歌川史哲・高桑祐司・上松佐知子 福島県いわき市の上部白亜系双葉層群足沢層より産出した軟骨魚類化石群集	B12 鶴田暁子・ジェンキンス ロバート・小木曾正造・鈴木信雄 鯨骨群集成立期における水/骨境界の酸素濃度分布と挙動の可視化
A12 加藤太一・中島保寿・木村由莉・鈴木千里・安藤寿男 後期白亜紀コニアシアン-サントニアンの中西太平洋における <i>Cretalamna</i> 属の多様性(予報)	B13 中島 礼・大路樹生・延原尊美 沼津沖の陸棚上から採取されたトウキョウホタテを含む貝類遺骸
A13 千田 森・Alison M. Murray・木村由莉 北海道上部白亜系蝦夷層群から産出した硬骨魚類化石	B14 安藤寿男・河又みさき・横山芳春 東京湾奥の干潟に発達する現生マガキ礁の分布と産状: カキ化石層形成過程理解に向けて
A14 佐賀昇吾・堀 利栄・岡本 隆・鏑本武久・楠橋直・佐藤たまき・向井一勝・朝永悠斗・脇山涼輔 愛媛県道後姫塚から産出した脊椎動物歯化石の検討	B15 大森 光・安藤寿男・村宮悠介・歌川史哲・隈隆成・吉田英一 双葉層群足沢層(上部白亜系下部コニアシアン)の大型アンモナイト化石密集層・巨大炭酸塩コンクリーション濃集層の形成過程
B15 平山 廉・滝沢利夫 久慈層群玉川層(後期白亜紀)産スッポンモドキ科 の形態学的多様性について	B16 デンジャーフィールド エマ・木村由莉 現生カンガルーの歯エナメル質中の酸素および炭素の安定同位体比 とアイソスケープモデルの構築

【17:15-17:30】ポスター賞表彰式（A会場）

【17:45-19:15】夜間小集会 西部上総層群のたまりはじめの頃（東京西部にたまった上総層群）（B会場）

世話人：樽 創（神奈川県立生命の星・地球博）・木村敏之（群馬県立自然史博）

趣旨：東京都での地質学的な研究は案外進んでいない。関東平野最西部の上総層群は、多摩川河床面に露出しており、青梅市から昭島市の国道16号線の拝島橋付近から上流が淡水域、下流が海水域と大別されているが、詳細な堆積年代は明らかになっていない。

本地域では化石は産出するものの、広域テフラ層は認識されていない。また、産出化石の研究も遅れており、古環境や古脊椎動物の研究もあまり進んでいなかった。この度、東京都から予算を得て、「多摩川中上流域上総層群 調査研究プロジェクト」が実施され、演者の一人鈴木が上総層群の年代を、福嶋が植物化石を、木村が大型の古脊椎動物を、樽が産出化石（足跡化石も含む）の整理を行ってきた。

本夜間小集会では、新たに3名の演者（山川、化石林に基づく湿地林の植生；納谷、珪藻化石を用いた堆積環境推定と生層序；高桑、サメの研究）が加わり、上総層群研究の面白さを伝えたい。

話題提供

第1 「時間」

鈴木毅彦（東京都立大学）：関東平野西縁に分布する上総層群の層序と年代：明らかになったこと、不明なこと

納谷友規（産業技術総合研究所）：淡水成・浅海成層からなる堆積サイクルの識別と年代決定に果たす珪藻化石の役割：関東平野中央部～西部に分布する上総層群相当層の例

第2 「海」

高桑裕司（群馬県立自然史博物館）：アキシマクジラと共産したサメ類化石

木村敏之（群馬県立自然史博物館）：西部上総層群産のクジラ類化石相

第3 「植物」

山川千代美（滋賀県立琵琶湖博物館）：化石林に基づく前期更新世の湿地林について：古琵琶湖層群と上総層群を事例に

福嶋 徹（昭島市郷土資料室）：前期更新世の関東堆積盆地西部に蓄積された大型植物化石について

第4 「陸上動物」

樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館）：大型陸上動物の変遷

総合討論

2月6日（日）会場：Zoom

【10:00-11:15】一般講演 口頭発表4（A, B会場）

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部 (4) 座長: 林 昭次	形態解析の部 座長: 野下浩司
A16 黒須弘美・柴田正輝・宮田和周・廣瀬浩司・鶴飼宏明 姫浦層群下津深江層(熊本県天草市)から産出したマーストリヒチアンのハドロサウルス上科の歯化石	B17 相場大佑 後期白亜紀アンモノイド <i>Tetragonites minimus</i> の成熟個体の識別と二型現象
A17 田中康平・オタバク アンワロフ・ダーラ ゼレニツキー・アクマジョン アーメシヤエフ・小林快次 ウズベキスタン共和国の上部白亜系ビセクティ層から産出したカルカロドントサウルス類恐竜	B18 伊藤綾花・佐野晋一・伊庭靖弘 赤道太平洋域産ヒップリテス科厚歯二枚貝のオクラのような「折りたたみ構造」の形成過程
A18 柴田正輝・宮田和周・中谷大輔・小平将大 上部白亜系三ツ瀬層(長崎県長崎市)から産出したハドロサウルス上科の肩甲骨について	B19 古居晴菜・安原盛明・Yuanyuan Hong・Huai-Hsuan M. Huang・生形貴男 貝形虫における閉殻力と姿勢の安定性のトレードオフ関係
A19 服部創紀・河部壮一郎・今井拓哉・柴田正輝・宮田和周・徐星・東 洋一 <i>Fukuivenator paradoxus</i> の系統的位置の再検討	B20 佐藤英明・佐々木猛智 存在しない貝を作る—深層学習による形態空間の構築—
A20 築地祐太・東 洋一 福井県勝山市の下部白亜系北谷層から産出した竜脚類の行跡	B21 坪井助仁 化石記録における進化能

【11:15-13:00】休 憩 (B 会場 ブレイクアウトルーム)

【13:00-14:30】一般講演 口頭発表 4 (A, B 会場)

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部 (5) 座長: 佐藤たまき	古環境の部 座長: 齋藤めぐみ
A21 小平将大・林 昭次・Koen Stein・Tsogtbaatar Chinzorig・Khishigjav Tsogtbaatar・辻極秀次 組織形態・特殊染色による恐竜類骨髄骨の識別法	B22 松岡陽夏・桑原希世子 PT 境界直前の <i>Albaillella triangularis</i> (放散虫) のサイズ減少
A22 石井紗智・林 昭次・Nyamkhishig Tsogjargal・Khishigjav Tsogtbaatar ピナコサウルスから考察する鎧竜類における歯の交換様式	B23 宮坂慎太郎・中谷是崇・瀬戸大暉・野崎 篤・宇都宮正志・間嶋隆一 神奈川県横須賀市浦郷丘陵の地下壕に露出する下部更新統上総層群野島層の層序と貝化石群集
A23 宇野友里花・平沢達矢 化石に保存された前肢骨格関節角度の比較解析から探る獣脚類系統における前翼膜の進化	B24 松井浩紀・Isabelle Billy・Olivier Ther・Xavier Crosta・池原 実 約 40 万年前の温暖期を通じた南極周極流の流路復元
A24 中島保寿・高井正成・平山 廉・タウンタイ・ジンマウンマウンティン・菌田哲平 巨大リクガメ <i>Megalochelys</i> の骨組織が示す成長・体重支持戦略の系統的位置の再検討	B25 三木志緒乃・窪田 薫・白井厚太郎・中島 礼・棚部一成 中～後期更新世温暖期, MIS 5・7・9 の長寿二枚貝ビノスガイの化石の貝殻の成長線パターンと酸素同位体比
A25 山下 桃 現生爬虫類における鞏膜輪形態と生活様式の関係性	B26 瀬戸川正和・堂満華子・坂井三郎・尾坂兼一・勝山正則 琵琶湖産現生セタシジミの殻の酸素同位体比
A26 池田忠広・太田英利・三枝春生・久保田克博・生野賢司・半田久美子・田中公教 兵庫県丹波市の下部白亜系篠山層群から発見されたアルバネルペトン類(両生綱: 平滑両生亜綱)について	B27 北村晃寿 古生物学的手法に基づく 2021 年 7 月 3 日に静岡県熱海市伊豆山地区で発生した土石流の実態究明

***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

- ・口頭発表では、ご自身でZoomの画面共有を行って頂きます。
- ・Zoomで講演するためには、マイクとスピーカー付きの端末が必要です(内蔵外付け不問)。
- ・Zoomへの接続時にはかなりの通信量が発生します。回線が細いと(上り10 Mbps以下等)接続が不安定になる恐れがあります。発表者をご自身の責任で接続環境を確保して下さい。
- ・Zoomの使用に不馴れな発表者の方は、事前にZoomテストミーティング (<https://zoom.us/test>) に接続して接続試験を実施しておいて下さい。この接続試験は、お使いの端末での接続環境 (Zoomの起動、スピーカーとマイク) を確認していただくものです。Zoomの操作方法については、下記の簡易マニュアルをご参照ください。

http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf

- ・ご自身の講演の順番になったらスライド画面を共有して下さい。次の演者に替わる際には速やかに「共有の停止」を押して下さい。
- ・共有画面の画角は4:3でも16:9でもどちらでも構いません。
- ・**シングルモニターのノートパソコンでのスライドショーの共有方法：**
 - 方法1) 「画面の共有」から、PowerPointを選択・共有した後に、スライドショーを開始。
 - 方法2) まず全画面表示のスライドショーを開始し、その状態でAlt+Tab (Windows) または Command(⌘)+Tab (Mac) のキーを押してZoomに画面を切り替え、「画面の共有」で「PowerPointスライドショー (+ファイル名)」を選択して「共有」ボタンを押す。
- ・Zoomへの接続やパソコンの操作は、発表者ご自身でお願いします。
- ・一般講演の口頭発表時間は15分です(質疑応答、画面共有操作の時間含む)。
- ・講演中は、時計をタイムキーパーのビデオに表示し、ご自身で残り時間を確認して頂く予定です。サムネイルビデオを非表示にすると時計が見えなくなるので、ご注意ください。

<ポスター発表をされる方へ>

- ・ポスターファイルは、10MB以下のPDFとして作成して下さい。縦横比は問いません。参加登録をお済ませいただいた上で、1月21日(金)までに、以下の専用サイトにログインして「ポスターアップロード」ボタンからファイルをアップロードして下さい。

<https://psj171.award-con.com/LOGIN.php>

- ・コアタイムには、講演毎にZoomのブレイクアウトルームを割り当て、その中で参加者と議論して頂きます。ブレイクアウトルームを利用するために、Zoomを最新版にしておいて下さい。ブレイクアウトルームで資料等を画面共有して頂くこともできます。

発表方法に関する問い合わせ先

行事係：生形貴男(京都大学) E-mail：ubukata@kueps.kyoto-u.ac.jp

その他

- **懇親会について**：本プログラム iii ページ参照。
- **録画・撮影について**：発表者の許可なく講演を録画・保存・撮影することを禁止します。
- 演者以外はマイクとビデオをミュートして下さい。チャットも濫用しないでください。
- **予稿集について**：第 171 回例会では予稿集の冊子体は配布しません。学会 HP から PDF をダウンロードしてご利用ください。また、会期中には例会専用サイトからも各講演の要旨をダウンロードできるようにします。
- **Zoom のインストール**：本オンライン例会では、Zoom というアプリケーションを使います。Windows 7 以降、Mac OS 10.9 以降の OS で使えることになっています。参加される方は、ご自身で事前に Zoom をインストールして下さい。Zoom は以下の公式ダウンロードセンターから入手できます。

https://zoom.us/download#client_4meeting

パソコンにインストールする場合は、上記ページの一番上に配置されている「ミーティング用 Zoom クライアント」のダウンロードボタンを押してファイルを保存して下さい。Windows からアクセスすると ZoomInstaller.exe、Mac からアクセスすると Zoom.pkg がダウンロードされます。Windows10 の場合、上記ファイルを実行するだけでインストールが終了します。Mac にインストールする場合は、以下のサイト等を参考にして下さい。

<https://zoom-support.nissho-ele.co.jp/hc/ja/articles/360023068011-Mac>

2020 年 12 月以降にダウンロードした場合アップデートの必要はありません。Zoom がインストールされている端末であれば、例会専用サイトから各会場へアクセスできます。専用サイトの利用方法については、下記の簡易使用マニュアルをご参照下さい。

http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf

- **Zoom の最新版へのアップデート**：本例会では、懇親会やポスター会場、昼休みにブレイクアウトルームを設け、参加者同士の議論・懇親の場として利用して頂く予定です。ブレイクアウトルームを参加者自身が行き来するためには、Zoom のバージョン 5.3.0 以上が必要です。それより古いバージョンをお使いの方は、事前に最新版にアップデートしておいてください。アップデートには Zoom アカウントが必要です。お持ちでない方は、<https://zoom.us/> から Zoom の公式サイトにアクセスして、ページ右上「サインアップは無料です」をクリックし、表示に従ってサインアップしてアカウント（無料でも可）を作成して下さい。アカウント作成後、Zoom を起動して「サインイン」を選択、登録したメールアドレスとパスワードを入力してサインイン、右上に小さく表示されているプロフィールボタン（マウスを当てると「利用可能」と表示される）からプルダウンメニューを表示させて、「アップデートを確認」で最新版にアップデートできます。
- 第 171 回例会は登録も講演も参加も全てオンラインです。技術的な個別のお問い合わせには学会として対応できませんので、ご自身の責任でご準備の上ご参加ください。